

トマト産地を支える若手農業者の技術力UP！

～農村ゼミナール ステップアップ講座の取組～

◆活動年次：平成28年度～

◆対象：平成28年度農村ゼミナール・ステップアップ講座（トマト）受講生 6戸9名、
平成29年度同講座受講生 5戸7名

1 課題の背景

背景

- ・平取町では平成14年から新規参入者の受け入れを積極的に行っている。
- ・普及センターでは平成25年から新規参入者および農家子弟を対象とした農村ゼミナールを開講し、若手農業者の育成を図っている。
- ・農村ゼミナールは、1年目に座学を中心とした基礎講座、2年目には専門分野（野菜・畜産・水稲）に分かれ、ほ場での実習を組み込んだステップアップ講座を開講している。

課題

- ・平取町で新規参入を希望する研修生は、就農までの2年間でトマト栽培の基本技術を身につける必要がある。

目標

- ・基本技術チェックリストの実施項目8割以上の達成。

2 活動の経過

(1) 農村ゼミナール・ステップアップ講座の開講

平成28年6回、平成29年5回の講座を開き（表1）、関係機関や指導農業士と協力し、トマト栽培に特化した内容の講義をした（写真1、2）。

表1 平成29年度カリキュラム

平成29年度	内容	講師
第1回 5/30	栄養診断	普及センター
第2回 7/6	病虫害防除・生理障害	普及センター・指導農業士
第3回 11/8	草勢管理	普及センター
第4回 12/7	施肥設計	農業支援センター
第5回 2/22	雑草防除・指導農業士と語ろう	普及センター・指導農業士



写真1 夏期の現地講習



写真2 冬期の座学

(2) チェックリストを用いた基本技術の確認・習得

トマト栽培時期に合わせ、基本技術をまとめたチェックリストを作成した。月2回の定期巡回時に配布し、作業終了頃に回収した。平成28年度は5枚（54項目）、平成29年度は10枚（110項目）を作成し、基本技術の習得に役立てた（図1）。

トマト栽培チェックリスト① ～摘果編～			名前	前日	当日
作業	チェック項目	評価※			
基本	摘果時に行った				
	5mm程度の葉柄を残した 主茎表皮をばがけないよう丁寧に摘果した				
収穫が始まった	1回の摘果は2枚までとした				
	第1段果房収穫開始前に、下葉から摘果した 収穫開始以降、常に展開葉を15枚以上確保した 2段果房収穫終了後に1段果房直上葉を摘果した				
※詳細：◎…ばっちり ○…できた △…もう一歩 ×…できなかった					



基本技術を確認



作業を実施

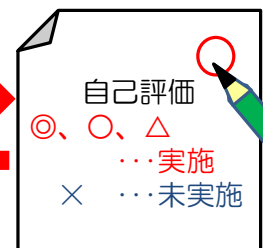


図1 チェックリストによる技術の確認

3 活動の成果

(1) 農村ゼミナール・ステップアップ講座の反応

農村ゼミナールを通じ、トマト栽培の基礎や農業者としての心得を学んだ。

受講生ほ場での実習や指導農業士ほ場での講習は好評だった(図2)。



ほ場を見ながらの講習で
わかりやすかった！
新規参入者 I氏



若手農業者が地域に期待され
ていることを実感した…！
農家子弟 T氏

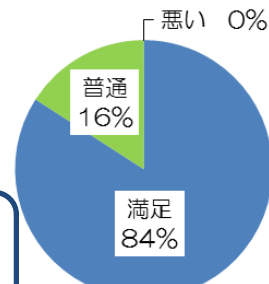


図2 H28満足度

(2) チェックリストを活用した栽培技術の確認

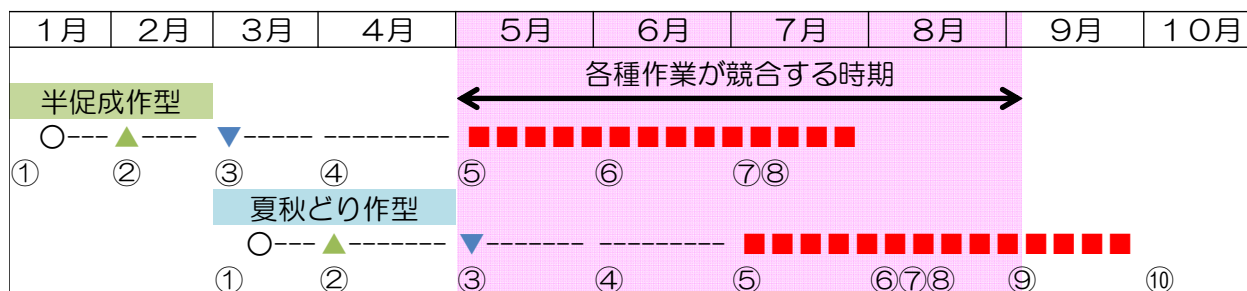
回収したチェックリストを個表にまとめ、第3回目の農村ゼミナール時に返却した。チェック項目の実施達成率は8割を超え、目標を達成できた(表2)。特に、新規参入者からは、育苗、追肥の問い合わせが多く、関心が高いことがわかった。

しかし、現地巡回を通じ作業後半になるほど適期に作業が行えていない様子だった。また、実施率の低かった草勢管理・摘葉・労働安全・後片付けの項目について受講生の理解を深めるため、農村ゼミナール時に再度講習を行った。

表2 平成29年度チェックリスト結果および農家の反応

チェック項目	実施率 (%)	農家の反応	チェック項目	実施率 (%)	農家の反応
①定植ほ場作り 育苗準備	97.2	土壌診断を実施し、適正な施肥ができた。地温も確認し保温もしっかりできた。	⑥摘葉	78.6	一度に何枚も摘葉していた。作業の都合上、一度に数枚しか摘葉できないのは厳しい。
②育苗	98.2	女性農業者の関心が高く、丁寧に育苗をしていた。かん水量に注意していた。	⑦諸作業 病害虫対策	90.0	収穫に追われ、誘引やハウス内外の除草が間に合わない様子だった。
③定植後の 草勢管理・ハチ	97.5	草勢を確認しながらわき芽取り・摘果ができた。ハチの管理や更新もよくできていた。	⑧高温・暑熱対策 労働安全	81.3	暑熱対策をしても、ハウス内温度が下がりにくく苦勞していた。夏期の昼休憩はしっかりとっていた。
④追肥	91.7	ハウスごとに異なる草勢を見ながら、適切な窒素・加里の追肥、かん水ができた。	⑨うどんこ病・疫病 ハダニ・裂果	96.2	早期防除は実施できた。少量多かん水ができず、裂果が多くなってしまった。
⑤草勢管理 生理障害	89.6	適切な摘果をしたが、第4～6段花房の花落ちが目立った。草勢の維持が難しいことを実感していた。	⑩後片付け 農業管理	66.7	実践農場では、道具の消毒やハウスビニールはぎ等を行うのは難しい。自家ほ場では行いたいとの声があった。

4 今後の課題



①～⑩チェックリストの該当項目番号

(○は種 ▲鉢上げ ▼定植 ■収穫)

- ・作業後半になるほど、作業が追いついていないことから、収穫作業と管理作業の時間配分・労働力配分(省力化等を含)の検討をする必要がある。
- ・チェックリストの回収方法を聞き取り形式に変更する。
- ・平成30年度も同様の活動を進め、若手農業者(農業研修生・農家子弟)の育成を継続する。